

# 「九条の会さかど」ニュース 14年2月27日 第46号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 283-4723 (FAX 兼用) 栗原

## 大雪の早春のつどい ナチ型の「ゴリ押し改憲」打ち破れ！

伊豆の山 川瀬渉貫

2月9日の九条の会さかど「早春のつどい」は、大雪の積もる中、26名の参加がありました。この雪に備えて講師の岩田行雄さんは前日の14時には来坂され、ホテルで講演の事前準備をされていたとのこと。

歩行に苦労しながら会場にたどり着いた私など、A4 13枚に20点もの資料がみっちり詰まったレジユメを前に頭の下がる思いでした。

[資料12]

に1946年2月13日に外務大臣官邸でGHQ草案を手渡した際の「記録」というのがあります。



これはGHQホイットニー民生局長が「GHQ法草案」を吉田茂外務大臣と松本内務大臣に手渡した時の記録ですが、これを読むと目前の光景のように微細にわたりはっきりと臉に映ります。

このGHQ草案は、ケーディス民政局次長以下25名の作成委員会が憲法研究会「憲法草案要綱(12月26日)」(起草者：高野岩三郎以下7名、執筆者：鈴木安蔵)を基礎資料として作成し、第九条はケーディス民政局次長、前文はハッシー同政務課長が起草してまとめたものです。

この草案を受けた日本政府は、国会で、本会議・改正案委員会(21回)・小委員会(13回)の3段階に亘る詳細審議を重ねて、日本国憲法(11章103条)を制定しました。(衆議院本会議可決は1946年8月24日、公布は11月3日)

**憲法の理想、捨てないで！**

第90回帝国議会衆議院(1946年6月25日)吉田総理大

臣から提案された憲法改正案「第2章 戦争の放棄」の趣旨説明(後半部分)「検証・憲法第九条の誕生」増補改訂第5版(岩田行雄編・著)P29~30より「これは改正案に於ける大なる眼目をなすものであります。およそ従来の各国憲法中、稀に類例を見るものでございます。かくして日本国は永久の平和を念願して、その将来の安全と生活を挙げて平和を愛する世界諸国民に、公正と信義をゆだねんとするものであります。この高き理想を以て、平和愛好国の先頭に立ち、正義の王道を踏み進んで行こうという、固き決意をこの国の根本法に明示せんとするものであります」

これら多くの資料に目を通してうちに、久々に思い出した「快晴」の8月15日の解放感でした。69年前、姫路空襲で焼け出されて疎開した丹波の田舎で、小川で野菜を洗っているところへ、近所の叔父さんがラジオを聞きにやってきて、一緒に天皇のキーキー声をようやく聴き分けて敗戦を知ったのでした。(参加者の感想は次号に掲載します)

## ああ坂戸町駅

元町 新井安史

図書館で『坂鶴100年』の画集を見ていて偶然にも戦後の坂戸町駅と越生線ガソリンカーの写真を見つけた。さまざまな回想が湧きおこったが、限られた紙面なので私が体験したことの一部を述べる。

私は梅園村(現越生町)の小学校を終え川越工業学校に進学した。戦後の翌年の4月のことで、通学は越生から坂戸、乗換えて川越までの遠距離通学であった。とりわけ苦労



## 発見！市民活動フェア

九条の会さかどもブースを出します！

日時 3月15日(土)10時~15時(途中からでも途中まででもご参加を)

会場 入西地域交流センター(九条ブースは2階中央②です)

参加費 なし(スタンプラリーで景品ゲット！)

坂戸市民や坂戸で市民活動やボランティア活動をしている活発な皆さんと交流できます。市のイベントで9条を語りあえる、貴重な機会にご参加を！

したのは毎朝の坂戸町駅での東上線への乗り替えであった。すし詰め、鈴なりのガソリンカーが坂戸に着くとバラバラと東上線のホームに駆け上った。ホームも人でいっぱい、そこに登り電車がカーブして入ってくる(当時は見えた)。一瞬ホームになんとも言えない緊張がはしる。電車がすべりこむ、同時にボリュームいっぱいの女性の声「サカドマチー」「サカドマチー」が響き渡る。電車は茶色の古ぼけた色で、窓ガラスはなく、入口は戸がなく、カンヌキが横に一本胸ぐらいの高さに取り付けてあるだけ。女性はこのカンヌキを潜って乗り込んだり、押し込まれたりであったようだが、男子の上級生はカンヌキに腕をまわし入口に立ち乗りし、中の人を庇っているようにもみえた。

さて出入口から乗れないとあとは連結機だ。言うまでもなく車両と車両を繋ぐ機械で強固な鉄のS状のもの。出発、停車時に遊びの隙間ができたり、カーブでは車両と共に上下する。あとで知ったが昔はその上に鉄板の蓋があったそうだが、戦時に不要なものとして弾丸に徹発されたという。そこは蓋だけでなくジャバラもなく行き来できない場所、3、4人が立ってられる。落ちたら命はないが人に押されることはない特等席と呼ばれた所。しかしこども上級生が優先。

さて最後の乗り口は窓だ。窓の内側は座っている人は殆どいない。多くは窓側に押しつけられていて、そこにどう乗り込むか知らなかったが、先輩がそのコツを伝授してくれた。それは先ず、はきものを脱ぐこと。下駄は背負わなければ誰も中に入れさせない。足は2本入れば上々。1本でも窓枠にしがみつけというものだった。実際にやってみたらほんとに上手くいった。ある時足が1本きり入らなかったが、途中で残りの足を入れてくれた人がいた。それにしても窓からの乗降は降りるときも肝心で、窓から抜け出るときに下駄を落としてしまったことがあった。電車は動き始めてしままいどうしようと立っていると、私が出た窓から誰かわからないが、ホームに私の下駄を投げてくれた人がいた。私は無事に学校に着いたが、あの時の有難さ、感動は今も忘れられない。戦後という世相や人心の荒廃をあげるが、こんな人もいたのである。以上の他、東上線の担ぎ屋のこと、線路づたいに越生まで歩いたことなどにも触れたかったが紙数がつきた。

(補記:東上線は陸軍坂戸飛行場の脇を通過するため、坂戸駅で窓のブラインドを下ろさせたそうです)

## 風船爆弾を作った少女たち(後編)

所沢市 内堀ヨシノ

でも、今なぜ風船爆弾なのでしょう。私の電話の呼びかけに眠った子が起きたのです。毎日自分のことだけしか考えたことのない風船爆弾の少女たちが、年寄りの私たちに、何かできることがあるのではないかと、6人の方からお手紙を頂きました。

「本当は直接ここに来て、皆さんに、あの当時の戦争の話をしたい。けれど歩けないので、あなたからよろしく願いしてください。私たちも命のある限り

頑張ります」

これは戦争に洗脳された少女たちの恥ずかしく悔しい告白です。

前橋高女60年史下巻150頁から152頁にかけて、終戦の日の私の日記の全文が記載されていますので一部をお話しさせていただきます。

8月15日(木)

今日という日が忘れられるか、日本国民として、日本が降伏した。馬鹿な…そんなことが信じられるか、信じられない。しかし事実は事実として現れたのだ。悔しさと敵愾心で胸はかきむしられるようだ。政治家なんて卓上の論で自分が都合悪くなれば止めてしまうのだ。

自分たちはあくまでもこの戦いをやり抜く決心でいるのに、何たることだ。

ああ三千年の歴史を有し、その間、一度も異国に犯されたことのない日本が降伏したことは、祖先にすまない。歴史上大きな汚点を後世に残さねばならないのだ。

わずか15歳の少女に、こういう文章を書かせた力とは、一体なんだったのでしょうか。まったく対照的に、戦争終結を解放として受け止めたものもあったようだが、大多数の生徒にとっては、あり得べからざることが起こった、との思いから来る茫然自失ないしは虚脱状態と言ったところが実感だったようである。

と記されています。(風船爆弾の原紙に触れている内堀さん)

戦争に国民を動員するための軍事教育は、15歳の少女をこのように変えてしまいました。ベニヤ板に覆われた校庭の中で、みんな黙々と、いや、喜んでひたすらに風船爆弾を作ったのです。

仕事のことは親にも誰にも話してはいけないと言われて、その命令を必死で守ったその結果が多くの人たちの命を奪い、家を焼き払ったのです。今、秘密保護法が自公の賛成多数で成立してしまいました。私はあの戦争の影が重なってとても心配です。ここにお集まりの皆さん、戦争を経験した人も、知らない人も、もう絶対に戦争は嫌です。15歳の軍国少女を作ることが無いよう、私は皆さんの小さなつぶやきが、大きな力となって歩き出してくださることを心からお願いして、お話しを終わらせていただきます。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

3月27日(木)10時~12時、4月24日(木)10時~12時

北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室  
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)